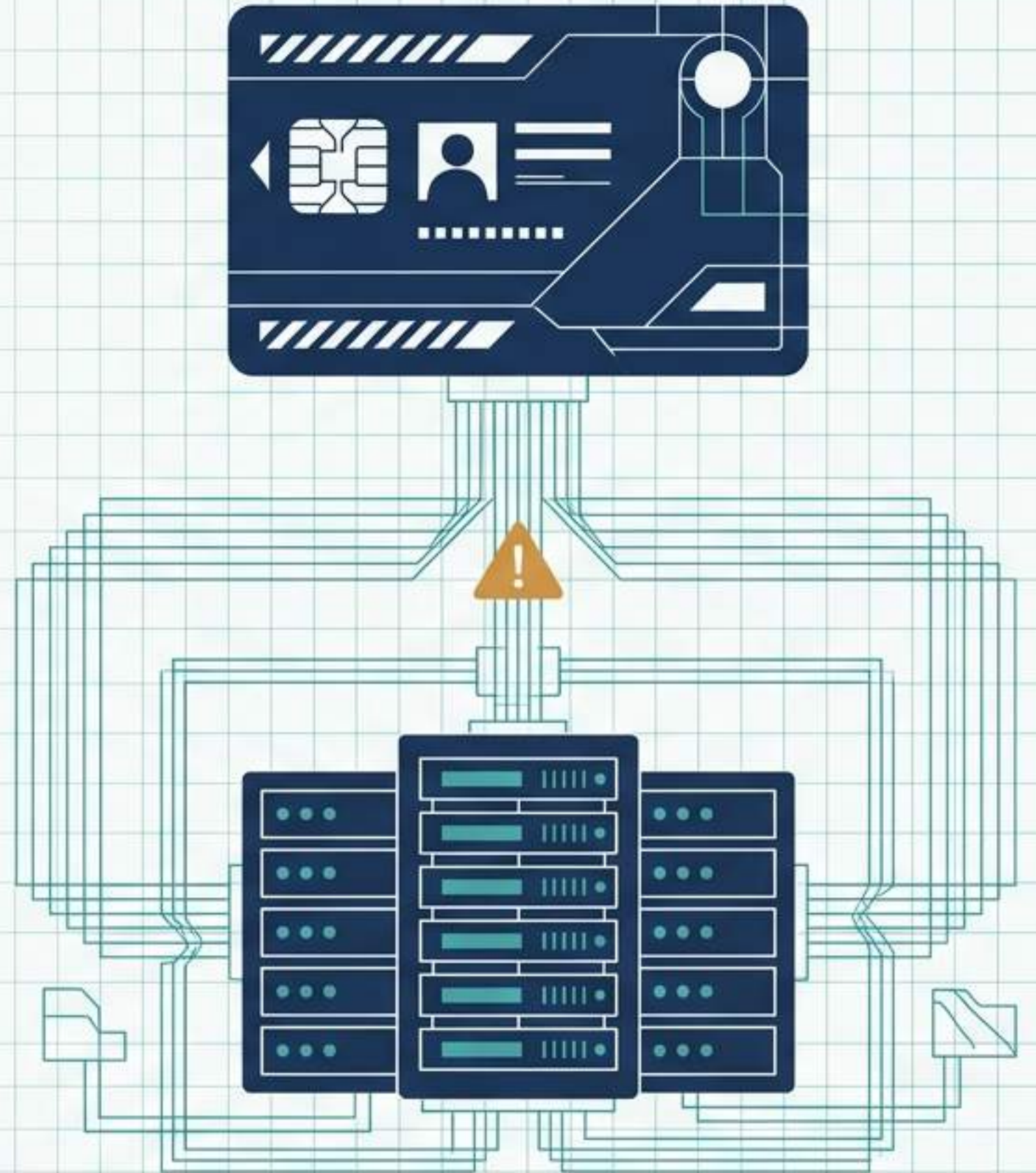


2026年6月、あなたの 「ワクチン接種歴」が 国に一元管理される。

利便性の裏で静かに進む、
巨大データベース稼働の真実。

知らないまま流されるか、
知った上で選ぶか。



ワクチンDBとは何か？（2026年6月運用開始）

[NODE 1]

目的

予防接種記録の一元管理
と、長期的な科学的検証・
有事の迅速対応。

[NODE 2]

仕組み

マイナンバーと紐付け、
マイナポータルで自身の接
種記録を自己確認可能に。

ワクチンDB

[NODE 3]

マイルストーン

2028年春までに全国民の情報を集約完了予定。

建前としては「研究者による有効性・安全性の分析」と「個人の利便性向上」を掲げる巨大プロジェクト。

ワクチンDBが抱える「光と影」

メリット / 光

接種事務の効率化と正確な接種率の把握

マイナポータルでの接種記録の自己確認

感染症有事への迅速な対応

ワクチンの長期的な科学的検証が可能に

懸念点 / 影

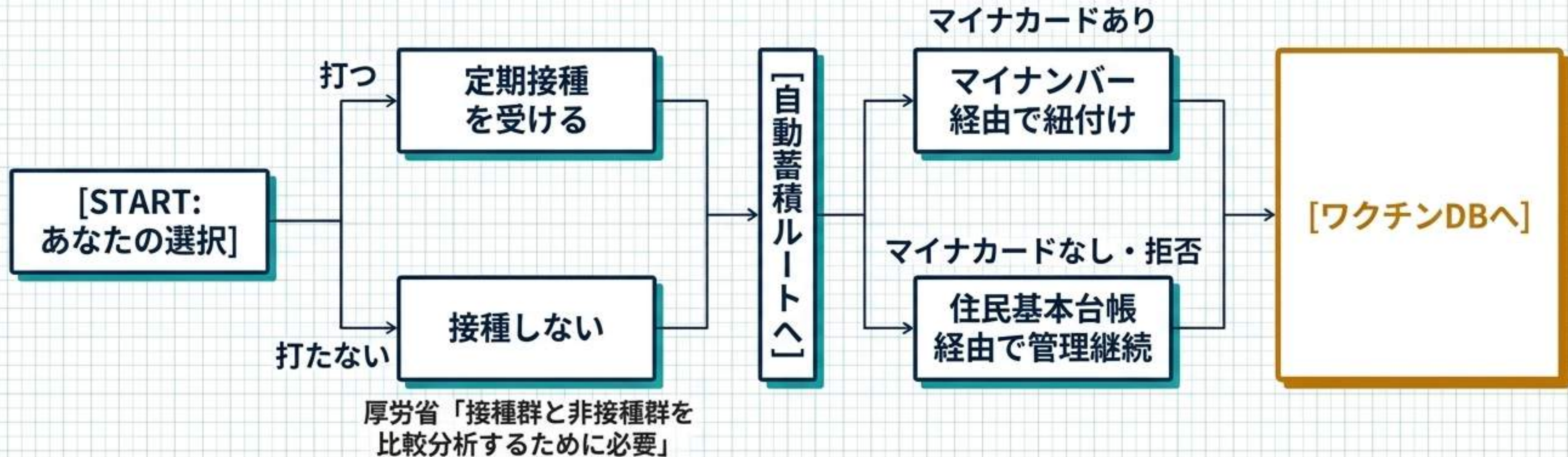
本人同意なしの自動集約
(オプトアウト手段が不明確)

匿名化データに潜む「再識別リスク」

マイナンバー情報漏洩の急増
(2024年度は過去最多)

コロナワクチンの過去データ検証が
不十分なままの移行

「実質強制」の全数管理パイプライン



拒否（オプトアウト）の明確な仕組みはなし。打っても打たなくても、カードがあってもなくても記録される「全数管理構造」。

爆発的に増加するマイナンバー漏洩



原因

外部委託先（社労士向け業務支援システム「エムケイシステム」）への不正アクセスで約2,745件が流出。

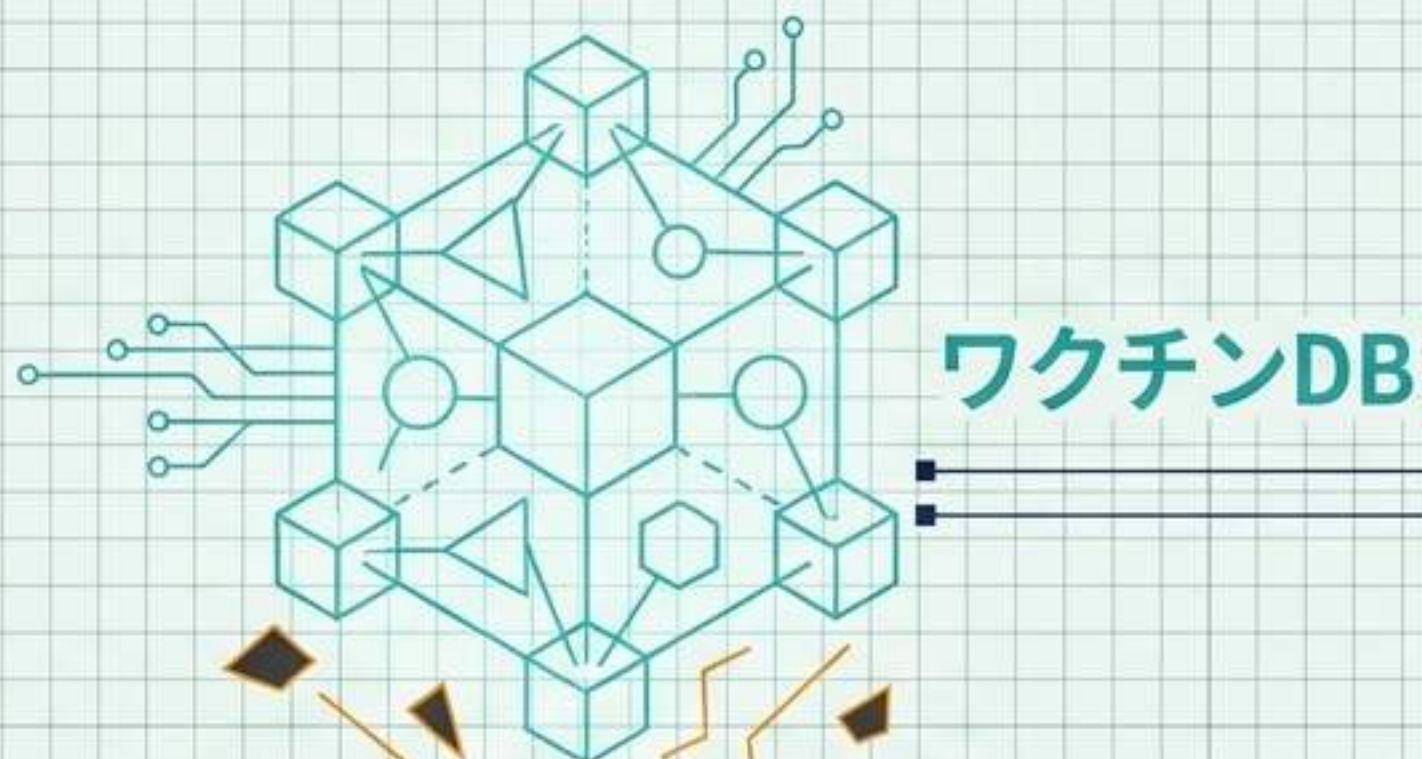
「国が管理するから安全」という前提は、外部システムを介した現実のサイバー攻撃の前に崩れ去っている。

「匿名化＝絶対安全」という技術的な錯覚



厚労省は「仮名化処理で個人は特定されない」と主張するが、他のデータと照合することで個人を特定できてしまう「再識別」の落とし穴は、技術的にゼロにはできない。最もセンシティブな医療情報が、このリスクに晒される。

過去の検証という「ブラックボックス」



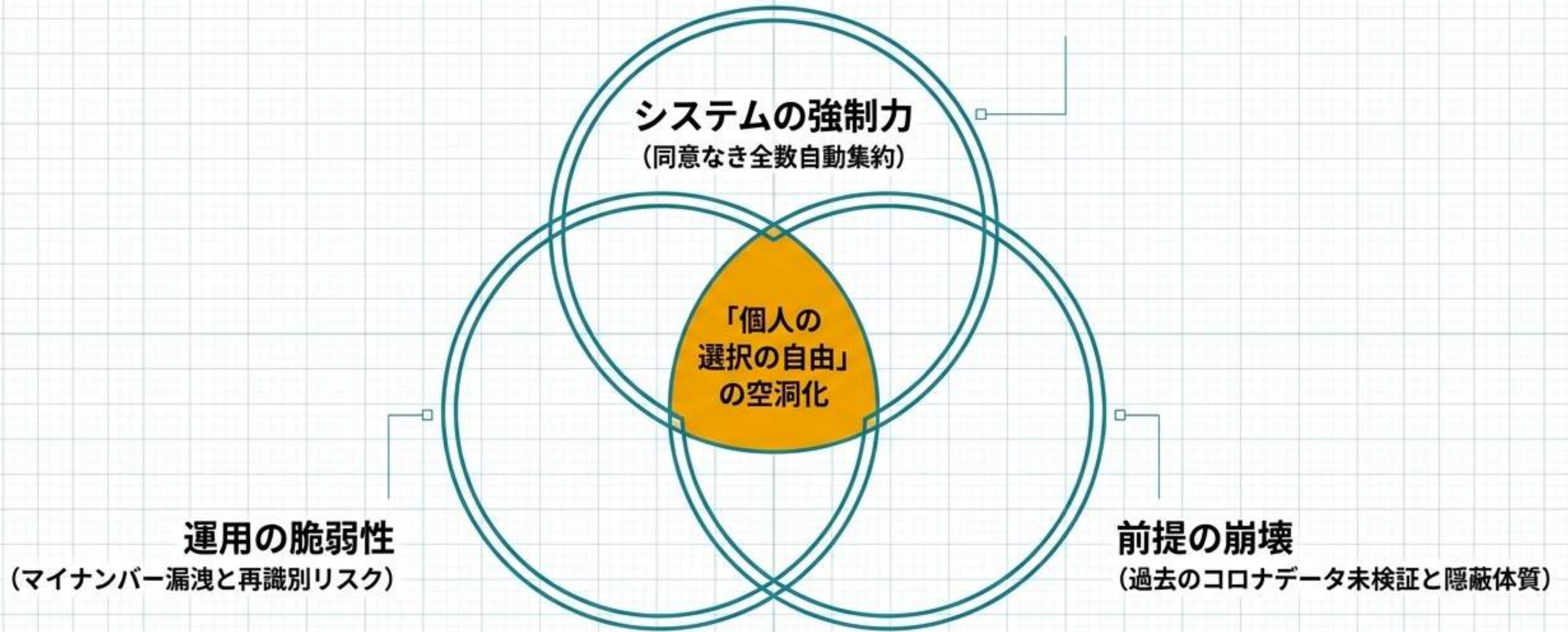
Insight Box

新しいワクチンDBは2026年度（令和8年度）以降の情報が中心。過去に蓄積された数億回分のデータを用いた透明性の高い独立検証を行わないまま、新たなシステムへ移行しようとしている。

コロナワクチン
データ
(数億回分)

- ✗ 接種歴不明者を「未接種」としてカウントした集計イカサマ
- ✗ 接種者の陽性率が未接種を上回った不都合なデータの発表隠蔽
- ✗ 戦後最悪の被害記録を更新中にもかかわらず「重大な懸念は認められない」とする姿勢

ワクチンDBが抱える「三重の課題」



個別の技術的・制度的問題にとどまらず、これら3つが重なることで、
私たちは「自分の医療データを自分で管理する権利」を静かに奪われつつある。

私たちはどう自己防衛・選択すべきか



[Module 1: 熟考] 定期接種の再考

「実質強制記録」を前提とした上で、本当にその公費助成対象の定期接種を受けるべきか、自分自身で十分に考える。



[Module 2: 牽制] 自治体への問い合わせ

居住する自治体の窓口へ「データ提供の範囲」や「将来的第三者提供の内容」を直接問い合わせ、監視の目を光らせる。



[Module 3: 防衛] デジタル依存の最小化

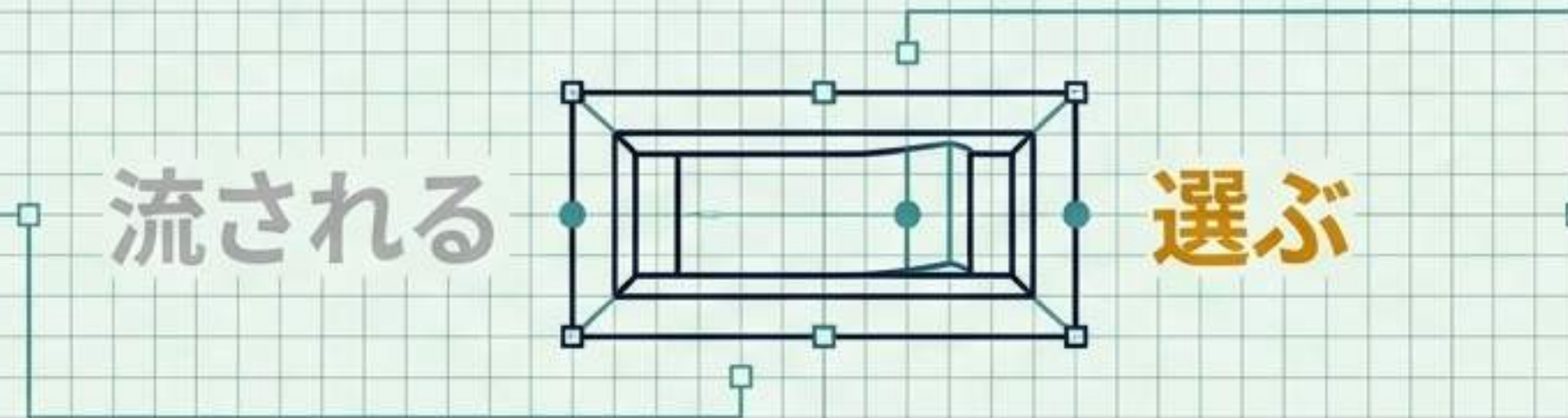
マイナポータルのは活用は最小限にとどめ、可能であれば紙での手続きを希望する選択肢を維持する。



[Module 4: 監視] 議事録の追跡

法改正は済んでいるが、運用ルールは決まらきっていない。厚労省「厚生科学審議会 予防接種基本方針部会」の議事録を注視する。

便利か、怖いか、必要ないか？ 便利か、怖いか、必要ないか？



あなたは今、自分が過去にどのワクチンを受けたか、すぐに答えられますか？

もし「正直わからない」のなら、国がそれを一元管理するシステムを2026年から稼働させることに、あなたはどう感じます。

システムを個人の手で止めることはできません。

しかし、「知らないまま流される」と、「知った上でどう向き合うか選ぶ」ことは、全く異なる未来を作ります。